

会 議 録

第9回定例会

開会 平成24年8月23日

教育委員会会議録

1 開 会 平成24年8月23日 午前10時00分

2 閉 会 平成24年8月23日 午前11時47分

3 出席委員

委員長	佐藤 紘子
委員	水口 艶子
委員	西池 氏裕
委員	筒井 直典
委員(教育長)	佐野 義行

4 出席者

副 教 育 長	原内 司
教 育 次 長	尾崎 好秋
教 育 次 長	高橋 博義
学 校 政 策 課 長	前田 幸宣
学 力 向 上 推 進 室 長	藤井伊佐子
教 育 総 務 課 長	東端 久和
教 育 総 務 課 副 課 長	藪下 武史

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配布されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

委員長 議案第25号を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項1 平成24年度とくしま教育の日（教育週間）実施事業について》

委員長 報告を求める。

教育総務課長 県教育委員会主催事業、関係団体主催事業等を報告する。

〈質 疑〉

水口委員：高校産業教育展は、高校ごとにブースがあるのか。

教育長：昨年はとくしまビジネスチャレンジメッセのブースを借りての開催だったが、今年は文化の森総合公園での開催となるので、従来のスペースが確保でき、それぞれの学校ごとのブースが用意できるのではないかと考えている。

筒井委員：内容的には昨年と比べてどうなのか。教育週間実施事業が条例の趣旨に則って拡大し、発展している状況が読み取れるのか。

東端課長：事業の数としては、毎年若干ながら増加している。ただし、県民に教育の日の活動、教育に理解を深めていただくということについては、必ずしも十分浸透しているとは言えない。

筒井委員：予算は、従来ある事業で組まれている予算でやっていくのか。

教育総務課長：今年度の新しい目玉は、スーパーサイエンスフォーラムで、商工労働部と連携して行う。17日の実施本部会議でも、「数がたくさんあることも効果的なことではあるが、テーマを絞った事業や目玉となる事業が必要ではないか。」「事業がわかりやすいロゴマークやキャッチフレーズを公募し、周知に努めることも広報の面で大事ではないか。」という御意見をいただいた。来年10年という節目を迎えるので、事務局としては予算を要求

し、節目にふさわしいより県民に浸透するような事業を検討したい。

筒井委員：数だけではなく質の問題であるとか、広報活動、予算、広く県民にどう呼びかけていくかということは今一度考えてほしい。

教育長：平成16年に議員の提案ということで条例が制定され、各学校等で、色々な事業に取り組み、数を増やしてきたが、数が増えすぎたことにより広がりはあるが焦点がぼけてしまったということもある。テーマを設ける等、色々工夫ができないか来年に向けて考えていきたい。

西池委員：教育の日として、今徳島の教育はかくあるべきだ、こういうことが問題だということが全体としてまとまって明確に見えるメインステージが必要ではないかという意見が昨年出された。それに対して1年間たって出てきたのは、数を増やせば良いという発想で、数が増えたから焦点がぼけたというのでは何をやってきたのか。

教育総務課長：事務局としては、教育の日を象徴する事業を実施するというところで検討し、予算を要求する努力もしたが、全体の予算編成の中で叶わなかった。その結果として、昨年と同じ形ではないかという御批判、御指摘はそのとおりで、委員の御意見に十分に答えていないという点は反省している。来年度については、今までの取り組みを踏まえ、10年の節目の年ということで工夫を重ねていきたい。例えばロゴマークの公募は、それほど予算を伴わなくても可能ではないかと考えているので、実施したい。

西池委員：予算が付かなかったので、できなかったというのも一つの理由と思うが、工夫は色々できるのではないか。様々な催し物の最初にパネルディスカッションをし、教育委員会としての方向性を示したり、県民との対話も可能ではないかと考える。事業費の獲得がすべてのネックポイントになるとは思わない。

委員長：10年前に教育の日を定めようと、地域の代表者や教員であった方が声を挙げたように記憶している。そういう状況の中で、地域の子どもが通っている学校がどのようなものか、保護者だけでなく地域の人に知ってもらうことがこれからは大事なのではないかということで、いつ来ていただいても良い学校オープンの日を決めようという動きがあった。現在では、地域の方々の学校に対する協力体制も相まって、オープンにお越しいただき地域の方の力を借りながら授業をしていくことが、市町村では多くなってきている。地域、県民の皆さんに教育こそ最も大事な分野なんだと意識していただき、教育の日を中心とする週間、月間をみんなに知ってもらうことが大事である。地域の人に教育の日、教育の週間だと意識として残るようなもの、ポイントとして重要視するものと両面が必要である。

10年目に向けて核となる事業等については、検討をしていただきたい。今年度については、10年を検証し啓発に努めて欲しい。

教育長：10年間で教育の日が浸透していることも事実である。ただ、検証が足りなかったと思うので、10年を振り返り、しっかり検証していきたい。また、打ち出し方の問題もある。ノーベル化学賞受賞の白川教授にお越しいただく、これは非常に大きなイベントではあると思うので、広報についても考えていきたい。

筒井委員：教育関係者だけの教育の日ではなく、県民運動的なレベルまで教育の日の意義が浸透できるようにお願いしたい。

水口委員：今全国的な問題となっているいじめ問題は、徳島でもないわけではない。今年の教育週間、教育の日のテーマとしてどこかで取り上げているのか。

教育長：11月にシンポジウムを検討している。

委員長：今年の計画もさらに膨らんでくるという話もあり安心した。10年目に向けて、これまでの検証をしながら、より広くそしてその意義が伝わるような取り組みをお願いしたい。

委員長 報告事項1を了承する旨を告げる。

《報告事項2 平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について》

委員長 報告を求める。

学校政策課長、学力向上推進室長 調査結果の概要、課題と今後の対応等を報告する。

〈質 疑〉

西池委員：予想していた結果が出ている。

報告には、結果の解析と対応策がきちんと述べられていて良いと思う。

しかしながら、課題として挙げられている応用力をどう考えているのか。

これは、言語力の問題であり、児童生徒が自分の考えていることを外に出せるということが大事である。報告に書かれているように、授業で話し合う活動を重視するというのはとてもよいことと考える。課題解決のために取り組んでいるのに、他県より結果が悪いのはどうしてか、また、成績の良い県との比較をして対策を立てているのか、日本全体として結果が低いということは、現在の方法でよいのかといったことも考えて欲しい。

理科離れについては、自然や物と実際に触れあうことが少ないのではないか。観察や実験の時間を確保することを強く言ってもいいのではないか。

学力向上推進室長：徹底するということが欠けていたと感じる。秋田県と比較すると、できている、よくできていると回答している項目が少ない。

学校改善支援プランのキャッチフレーズである、みんなでする、つづけてでする、とことんするを常に呼びかけていきたい。

委員長：学校現場では、職員の意識によって取組がずいぶん変わってくると考える。すべての学校の教員にこういった意識が育ち、推進されることを希望する。また、積み上げてきた成果が後になるほど表れてくることを期待する。

学校政策課長：全ての学校で教育が行われており、徳島が全国より教育が低いということはありません。全国の条件は同じなので、徳島は学力調査の利用が低いことから、教員の使命としてではなく、職務として教育に当たるべきと考える。今後は、「だいたいやっている」から「やっている」へのシフトが重要であり、学校が組織として教育を行うことが大切である。

教育長：学校は学習指導要領で定められていること以外のことがたくさんある。精査しながらやることが大切である。子どもたちの学習活動において、環境整備と交通整理をしながら進めなければならない。

委員長：学校では、子どもたちに教えるべきものがたくさんある。学習指導要領も新しくなったということで、しっかり検討して、次回に活かして欲しい。各市町村の指導も重要である。指導主事が市町村教育委員会を回ったり、校長会で重要なことを伝達したりしていくという報告があったが、全職員に徹底できるようにお願いしたい。

水口委員：家庭学習の取組が良好ということで、以前よりよくなった印象がある。家庭学習の習慣を付けるには、家族とのコミュニケーションが大切である。家庭との連携にも力を入れて欲しい。

委員長 報告事項2を了承する旨を告げる。

[非公開]

《議案第25号 徳島県高等学校修学等支援基金条例の一部を改正する条例について》

(非公開につき、議事の内容については省略)

[閉会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午前11時47分